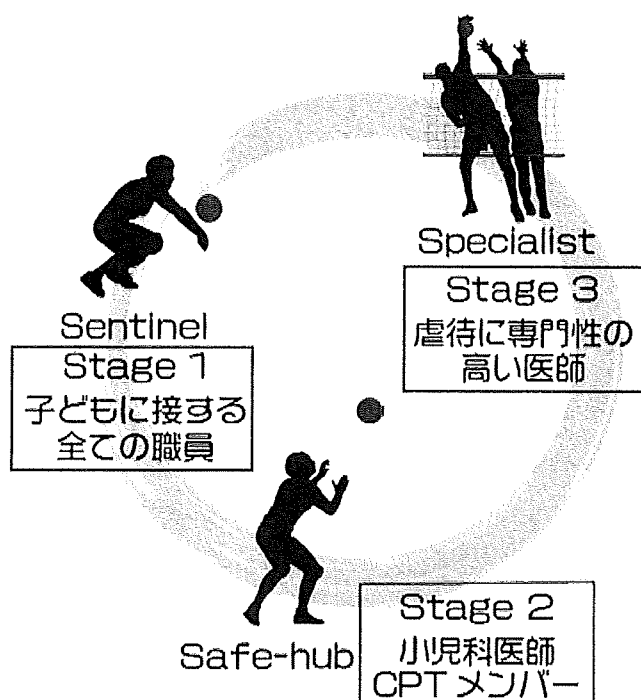


皆で虐待の問題に光を当て
崩れゆく家族を梁のように支え
子どもに心からの笑顔を取り戻してほしい

*beam=光の束、梁、心からの笑顔



Stage 1:

虐待を早期に発見し通告することの意義を理解し、危機管理の視点のみならず育児支援の視点で、Sentinel（見張り番）となる。

Stage 2:

虐待の可能性のある子ども／親との接し方の基本を学び地域と家族を適切に繋げる（安全の架け橋：Safe-Huとなる）こと、ならびに急性期に求められる医学的検査カテゴリー診断ができるようになる。

Stage 3:

専門医師として求められる対応を、ロールプレイなどを通し積極的に理解し、実践的対応能力の向上を目指す。Stage3の修了者は、地域での虐待対応の推進役となることが期待される。

Stage 1 受講者 29,307人
Stage 2 受講者 6,962人
Stage 3 受講者 373人

子ども虐待対応の
共通言語として
全国に広がっています
*2025年3月現在

2つの開催方法

招へい型：医療機関や地域（行政など）から講師派遣を依頼いただく
センター型：日本子ども虐待医学会主催で開催

開催依頼・開催情報や参考資料などはHPへ！

<https://beams.iamscan.jp/>

